

平成 26 年度 北海道大学総合技術研究会 参加報告

高柳 充寛 ・ 河原 夏江 化学・生物技術分野

山田 修一・山浦 賢太郎・穂刈 治英 総合安全・情報管理技術分野

星野 英夫 機械・金属技術分野

1. はじめに

総合技術研究会は実験・実習技術研究会と隔年で開催されており、全国の大学・研究所・高専の技術系職員による日常業務の中での改良や改善、新たな取り組みなどについての発表や情報交換の場となっている。今回、平成 26 年 9 月 4 日（木）、9 月 5 日（金）の二日間に渡って開催された平成 26 年度 北海道大学総合技術研究会に参加した。これは北海道大学で開催され、口頭発表 178 件、ポスター発表 227 件、83 機関から聴講を含め総勢 782 名の参加があった。

2. 研修内容

1 日目の 9/4(木)に 2010 年ノーベル化学賞受賞、北海道大学名誉教授の鈴木章先生の特別講演「人類の進歩に役立つ科学の例 -有機ホウ素化合物を利用する有機合成-」とポスターセッションが二部に分かれて 1 時間半ほどあった。各ポスターにおける質疑応答、意見交換はなかなか活発で順番待ちでなかなか質問等ができないポスターも多かった。また、河原が実験・実習技術分野で「学生実験における新規有機合成実験テーマの取り組みと実験室改修」、星野が機械・材料系、制作技術分野で「長岡技術科学大学工作センターにおけるワイヤー放電加工の紹介」と題して発表を行った。1 日目の終了後に別会場で情報交換会が行われた。

二日目の 9/5(金)は 12 分野、15 会場に分散しての口頭発表で、高柳も地域貢献・技術者養成活動分野で「長岡技術科学大学のグループ研修の紹介と変遷」というテーマで発表をしてきた。発表後、

会場からこのような技術研究会等に聴講参加でも予算が付くのかの質問があったのでイエスと回答した。他の大学、機関でも以前の我々技術職員と同様に技術研究会参加の予算確保に苦労しているところは多いようだ。

3. 研修成果

他大学、高専や研究所などの技術職員が総合技術研究会に参加しており、他機関で行われている様々な事柄、学生実験、安全管理、理科教室などの地域貢献などについて知識を得たり、また意見交換など行うことが出来た。

本研究会で見聞したことを自らの糧とし、今後の業務に多少なりとも生かせるように日々努力していこうと思う。



図 1 ポスター発表会場の様子